

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-224059

(43) 公開日 平成11年(1999) 8月17日

(51) Int.Cl.⁴

G 0 9 F 9/00

G 1 1 B 33/02

識別記号

3 5 0

5 0 5

F I

G 0 9 F 9/00

G 1 1 B 33/02

3 5 0 Z

5 0 5 B

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 13 頁)

(21) 出願番号 特願平10-26958

(22) 出願日 平成10年(1998) 2月9日

(71) 出願人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72) 発明者 熊澤 京亮

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(72) 発明者 山田 源一

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(72) 発明者 濱野 功

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(74) 代理人 弁理士 滝本 智之 (外 1 名)

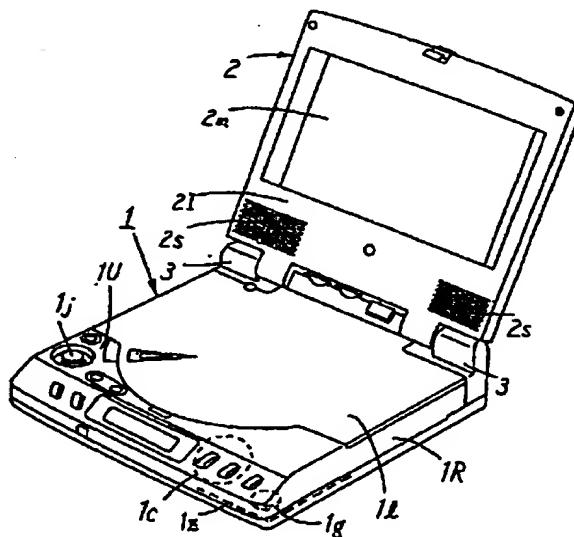
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 映像音声再生装置

(57) 【要約】

【課題】 横置きにすると不安定で、操作ができないという課題を解決し、通常の載置のみならず、横置きにしても非常な安定な載置でかつ装置の操作ができ、自然な視聴感が得られる映像音声再生装置を提供することを目的とする。

【解決手段】 どのように回動させても、装置本体1、モニター部2の右側面1R、2Rによる平面が回動支持部3の回動軸に略直角で、かつ装置本体1の重心が右側面1R側に偏っていることにより横置き載置時でも安定した載置が可能で、かつ操作スイッチ等を右側面には構成していないため、使用者が横に寝ても装置の操作ができ、自然な視聴感が得られる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 内包する記録再生媒体を再生して映像信号、音声信号を出力する、略直方体形状の装置本体と、前記装置本体の出力する映像信号を入力して映出する映出手段を有するモニター部と、前記装置本体と前記モニター部との後部端辺近傍に設けられ、前記モニター部を回動自在に支持する回動支持部と、を有し、前記装置本体と前記モニター部との全側面の内、少なくとも左右どちらか一方の両側面が、前記回動支持部の回動軸に対し回動角度に関わらず略垂直で、かつ前記装置本体の重心が、前記回動支持部の回動軸に対し回動角度に関わらず略垂直な前記一方の側面側である第1の側面側に偏っていることを特徴とする映像音声再生装置。

【請求項2】 内包する記録再生媒体を再生して映像信号、音声信号を出力する、略直方体形状の装置本体と、前記装置本体の出力する映像信号を入力して映出する映出手段を有するモニター部と、前記装置本体と前記モニター部との後部端辺近傍に設けられ、前記モニター部を回動自在に支持する回動支持部と、前記装置本体と前記モニター部とを操作する操作手段と、前記装置本体に電気信号を供給する供給端子手段と、を有し、前記装置本体と前記モニター部との両側面の内、少なくとも左右どちらか一方の両側面である両第1の側面には前記操作手段および前記供給端子手段を配置せず、かつ前記装置本体の重心が、前記第1の側面側に偏っていることを特徴とする映像音声再生装置。

【請求項3】 装置本体の後部端面に脱着可能に固定保持される前面を持つ副装置本体を有し、前記副装置の両側面の内一方の第2側面が前記装置本体の第1側面より内側にあり、かつ前記副装置本体の重心が前記第2側面側に偏っていることを特徴とする請求項1あるいは請求項2いずれか記載の映像音声再生装置。

【請求項4】 記録再生媒体を載置して駆動させるメカニズムを装置本体内部に備え、前記メカニズムは装置本体中央に対し第1の側面側に近づけて構成したことを特徴とする請求項1あるいは請求項2いずれか記載の映像音声再生装置。

【請求項5】 モニター部は装置本体の出力する音声信号を音響出力するスピーカを有し、前記スピーカは映出手段の映出画面と回動支持部との間に構成されたことを特徴とする請求項1あるいは請求項2いずれか記載の映像音声再生装置。

【請求項6】 装置本体が横に置かれたことを検知する横置き検知部、および使用者の操作により映像を上下左右反転しかつ音声を左右反転する反転指令信号を出力する反転スイッチ、からなる反転信号出力手段と、記録再生媒体から映像信号、左右音声信号を再生し出力する映像音声再生手段と、映像音声再生手段の出力する映像信号を入力して前記反転指令信号に従い映像を上下左右反転させて出力する映像反転手段と、映像反転手段の出力

を映写する映像映写手段と、前記映像音声再生手段の音声信号と前記反転指令信号とを入力し、ヘッドホンの接続の有りあるいは無しに従って音声信号をヘッドホンあるいはスピーカに切り替えて音響出力する音響出力手段と、を有し、前記反転信号出力手段は、前記横置き検知部が装置本体の横置きを検知しなければ、反転指令信号が出力せず、かつ前記音声出力手段はスピーカから音響出力されるときのみ前記反転指令信号に従い音声を左右反転させて音響出力することを特徴とする映像音声再生装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、円盤状記録再生媒体（以下ディスクとする）あるいは帯状記録再生媒体等の記録再生媒体を少なくとも再生し、再生された映像、音声を液晶（LCD）モニター、スピーカ、ヘッドホンによって出力する映像音声再生装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】近年、V-CD、DVD（デジタル・バーサタイル・ディスク）等のディスクから映像、音声を再生し出力する映像音声再生装置が種々提案されている。特に、世の中の電子機器の軽薄短小化、パーソナル機器重視に合わせて小型なものが注目されてきている。

【0003】以下、従来の映像音声再生装置について図面を用いて説明する。図1は従来の図を示すものである。図1において、101は装置本体で、横長の直方体形状で、上面101Uの中央部にディスク蓋101Iがあり、ディスク蓋101Iを開けることによってディスク（図示せず）を載置でき、装置本体101の前面101Fから上面101Uにわたって配置された操作スイッチ群101cによって、ディスク再生や停止等の操作をすることができる。101sはスピーカで、上面101Uのディスク蓋101Iの両サイドに設けられ、ディスクの再生音声ここからステレオで音響出力され、大勢の使用者でも全員で聴取できる。

【0004】装置本体101の両側面101L、101Rはやや丸みを帯びた局面形状となっており、左側面101Lにはヘッドホン端子101hが有り、この端子にヘッドホン（図示せず）を接続することでディスクの再生音声ヘッドホンから出力され、かつスピーカ101sからの音声出力は切られるので、ひとりで音声を楽しむことができる。右側面101Rには電源端子101pが構成され、この端子に電線線あるいはカーバッテリー用のDCアダプター（図示せず）の出力を供給することで、映像音声再生装置に電源が供給される。背面101Bには、ステレオアンプ（図示せず）、TVモニター（同）に音声信号、映像信号を供給するための音声端子101a、映像端子101vがある。また、下面101Sにはその四角近傍にゴム足101g（図1ではその

内を1つのみを図示)が接着により固定されている。

【0005】102はモニター部で、装置本体101の投影面積より小さい直方体形状で、装置本体101の上面101Uに覆いかぶって開閉するように、その上面101Uの背面101B近傍に設けられた回動支持部103によって回動自在に支持されている。102Iはモニター内面でその中央に液晶モニター画面(以下、LCDと略す)102mが構成され、ディスクの再生映像が映写される。

【0006】従来の映像音声再生装置は、このように構成されていることで、その下面101Lを書斎机、食卓あるいは乗用車のダッシュボード上(運転者からは見えないところ)等の平らなところ(以下、総称して机上と略す)に置き、上述した電源を右側面101Rの電源端子101pから供給し、操作スイッチ101cを操作することで、大勢の人でもディスクの再生映像、音声を視聴することができる。また、一人でディスクの再生映像、音声を楽しみたいときには、ヘッドホンにヘッドホン端子101hに接続することで、スピーカーからの音声が出力されないの、周囲に騒音を出さない。特に、周知のようにヘッドホンはその左側の耳部分から接続コードが出ていることが多く(あるいは、ヘッドホンの両耳から出ているものもある)、ヘッドホン端子101hが左側面101Lにあることで、接続コードが左側にきれいにまとめられる。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら上記の従来の構成では、以下に示す問題点を有していた。まず、従来の映像音声再生装置は、装置本体の側面が曲面形状で端子を有し、かつ装置本体とモニター部との幅寸法がお互いに違っているため、横置きでは映像音声再生装置を安定に載置できず、下面を下にして載置することしかできなかった。そのため、図2に示すような使用者が横に寝た状態(すなわち、頭部を横にした状態)では、正常な上下左右の画面状態で見ることができなかった。また、スピーカーがモニター部になく装置本体にあるので、通常の状態でもスピーカーの真正面に使用者の顔をおけず充分な音響特性が得られないことに加えて、使用者が横になると左右スピーカーがあたかも上下スピーカーのようになり、ステレオ感さえ得られないという課題があった。

【0008】本発明は上記従来の問題点を解決するもので、正常な載置における操作性を損なわず、使用者が横に寝ても、操作性はそのまま正常な上下左右で視聴できるように横置きが可能で、しかも重心的に安定な横置きができる映像音声再生装置を提供することを目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】この目的を達成するために本発明の映像音声再生装置は、装置本体とモニター部

との全側面の内、少なくとも左右どちらか一方の両側面が、回動支持部の回動軸に対し回動角度に関わらず略垂直で、かつ装置本体の重心が、回動支持部の回動軸に対し回動角度に関わらず略垂直な一方の側面側である第1の側面側に偏っている構成を有している。

【0010】この構成によって、装置本体の第1の側面とモニター部装置の同じ側の側面とが、回動軸に略垂直な同じ面上にあり、かつ装置本体の重心が装置本体の第1の側面側に偏っているの、通常の装置本体下面を下側になるよう載置する場合(通常載置)と同じく、本体とモニター部を回動し第1の側面側を下側になるよう載置する場合(横置き載置)でも非常に安定した載置が可能で、映出手段の画面を縦横どちらを下にしても見ることができる映像音声再生装置が得られる。

【0011】また、本発明の映像音声再生装置は、装置本体とモニター部との両側面の内、少なくとも左右どちらか一方の両側面である両第1の側面には操作手段および供給端子手段を配置せず、かつ装置本体の重心が、第1の側面側に偏っている構成を有している。この構成によって、装置本体とモニター部の両方の第1の側面には、再生に必要な電源端子、ヘッドホン端子等の端子手段、電源スイッチ、再生操作スイッチ等の操作手段がなく、かつ装置本体の重心が装置本体の第1の側面側に偏っているの、通常載置と同じく、横置き載置しても非常に安定した載置が可能でかつ映像音声再生装置の操作ができ、映出手段の画面を縦横どちらを下にしても操作することができる映像音声再生装置が得られる。

【0012】また、本発明の映像音声再生装置は、装置本体が横に置かれたことを検知する横置き検知部、および使用者の操作により映像を上下左右反転しかつ音声を左右反転する反転指令信号を出力する反転スイッチ、からなる反転信号出力手段と、映像音声再生手段の出力する映像信号を入力して反転指令信号に従い映像を上下左右反転させて出力する映像反転手段と、映像反転手段の出力を映写する映像映写手段と、映像音声再生手段の音声信号と反転指令信号とを入力し、ヘッドホンの接続の有りあるいは無しに従って音声信号をヘッドホンあるいはスピーカーに切り替えて音響出力する音響出力手段と、を有し、反転信号出力手段は、横置き検知部が装置本体の横置きを検知しなければ、反転指令信号が出力せず、かつ音声出力手段はスピーカーから音響出力される時のみ反転指令信号に従い音声を左右反転させて音響出力する構成を有している。

【0013】この構成によって、横置き載置を自動的に検知し、使用者の操作により映像、音声を反転させるので、一側面を下部にする横置き載置の場合に、使用者がどのように横向きに寝ても、また音声をスピーカ、ヘッドホンのどちらで聴取しても、自然な視聴感の映像音声再生装置が得られる。

【0014】

【発明の実施の形態】本発明の請求項1に記載の発明は、内包する記録再生媒体を再生して映像信号、音声信号を出力する、略直方体形状の装置本体と、装置本体の出力する映像信号を入力して映出する映出手段を有するモニター部と、装置本体とモニター部との後部端近傍に設けられ、モニター部を回動自在に支持する回動支持部と、を有し、装置本体とモニター部との全側面の内、少なくとも左右どちらか一方の両側面が、回動支持部の回動軸に対し回動角度に関わらず略垂直で、かつ装置本体の重心が、回動支持部の回動軸に対し回動角度に関わらず略垂直な一方の側面側である第1の側面側に偏っていることを特徴としたものであり、装置本体の第1の側面とモニター部装置の同じ側の側面とが、回動軸に略垂直な同じ面上にあり、かつ装置本体の重心が装置本体の第1の側面側に偏っているため、通常装置本体下面を下側になるよう載置する場合（通常載置）と同じく、本体とモニター部を回動し第1の側面側を下側になるよう載置する場合（横置き載置）でも非常に安定した載置が可能で、映出手段の画面を縦横どちらを下にしても見ることができるという作用を有する。

【0015】また、本発明の請求項2に記載の発明は、装置本体とモニター部とを操作する操作手段と、装置本体と電気信号を送受する端子手段と、を有し、装置本体とモニター部との両側面の内、少なくとも左右どちらか一方の両側面である両第1の側面には操作手段および供給端子手段を配置せず、かつ装置本体の重心が、第1の側面側に偏っていることを特徴としたものであり、装置本体とモニター部の両方の第1の側面には、再生に必要な電源端子、ヘッドホン端子等の端子手段、電源スイッチ、再生操作スイッチ等の操作手段がなく、かつ装置本体の重心が装置本体の第1の側面側に偏っているため、通常載置と同じく、横置き載置しても非常に安定した載置が可能でかつ映像音声再生装置の操作ができ、映出手段の画面を縦横どちらを下にしても操作することができるという作用を有する。

【0016】また、請求項3に記載の発明は、装置本体の後部端面に脱着可能に固定保持される前面を持つ副装置本体を有し、副装置の両側面の内一方の第2側面が装置本体の第1側面より内側にあり、かつ副装置本体の重心が第2側面側に偏っていることを特徴とするもので、充電電池や電池を内包するバッテリー部等の副装置本体の重心を、略平らな第2の側面側に偏らせ、装置本体の後部にこの副装置本体を固定させるようにすることで、横置き載置時、装置本体、副装置本体の重心が、それぞれ第1、第2の側面に近くかつ第1、第2の側面上に垂下するので、より安定に載置させることができるという作用を有する。

【0017】また、請求項4に記載の発明は、記録再生媒体を載置して駆動させるメカニズムを装置本体内部に備え、メカニズムは装置本体中央に対し第1の側面側に

近づけて構成したことを特徴とするもので、主に金属でできて比重の高い、ディスク等を駆動するメカニズムを装置本体の第1の側面側に近接させて構成することで、装置本体の重心が第1の側面側に偏り、横置き載置が安定するという作用を有する。

【0018】さらに請求項5に記載の発明は、モニター部は装置本体の出力する音声信号を音響出力するスピーカーを有し、スピーカーは映出手段の映出画面と回動支持部との間に構成されたことを特徴とするもので、モニター画面と同一面下部にスピーカを構成したので、自然な視聴感が得られるのみならず、振動するスピーカの振動モーメントを小さくして回動支持部への負担を少なくするという作用を有する。

【0019】また、本発明の請求項6に記載の発明は、装置本体が横に置かれたことを検知する横置き検知部、および使用者の操作により映像を上下左右反転しかつ音声を左右反転する反転指令信号を出力する反転スイッチ、からなる反転信号出力手段と、記録再生媒体から映像信号、左右音声信号を再生し出力する映像音声再生手段と、映像音声再生手段の出力する映像信号を入力して反転指令信号に従い映像を上下左右反転させて出力する映像反転手段と、映像反転手段の出力を映写する映像映写手段と、映像音声再生手段の音声信号と反転指令信号とを入力し、ヘッドホンの接続の有りあるいは無しに従って音声信号をヘッドホンあるいはスピーカーに切り替えて音響出力する音響出力手段と、を有し、反転信号出力手段は、横置き検知部が装置本体の横置きを検知しなければ、反転指令信号が出力せず、かつ音声出力手段はスピーカーから音響出力されるときのみ反転指令信号に従い音声を左右反転させて音響出力することを特徴としたものであり、横置き載置を自動的に検知し、使用者の操作により映像、音声反転させるので、一側面を下部にする横置き載置の場合に、使用者がどのように横向きに寝ても、また音声スピーカ、ヘッドホンのどちらで聴取しても、自然な視聴感が得られるという作用を有する。

【0020】以下、本発明の実施の形態について、図面を用いて説明する。

（実施の形態1）図1～3は 本発明の映像音声再生装置の実施の形態の斜視構成図で、図1はモニター部開蓋状態を左前方向から見たもの、図2は同じく右前から見たもの、図3は閉蓋状態を左後方から見たものである。図4はディスクを載置するため、ディスク蓋を開蓋した状態の斜視図である。

【0021】図1～3において、1は装置本体で、縦・横辺がほぼ同じ直方体形状で、上面1Uにディスク蓋1Iがあり、図4のようにディスク蓋1Iを開けることによってディスク（図示せず）をスピンドル部4aに載置でき、装置本体1の前面1Fから上面1Uにわたって配置された操作スイッチ群1c、選択ジョイスティック

イッチ（後に詳述。以下、選択Ｊスイッチと略す）１ｊによって、ディスク再生や停止等の操作をすることができる。

【００２２】装置本体１の両側面１Ｌ、１Ｒはほぼ平面形状となっており、そのうち左側面１Ｌにはヘッドホン端子１ｈ、電源端子１ｐ、電源スイッチ１ｓ、音声ボリューム１ｏが有る。従来の映像音声再生装置と同様に、ヘッドホン端子１ｈにヘッドホン（図示せず）を接続することでディスクの再生音声ヘッドホンから出力され、かつスピーカ２ｓ（後述）からの音声出力は切られるので、ひとりで音声を楽しむことができ、また、電源端子１ｐに電灯線あるいはカーバッテリー用のＤＣアダプター（図示せず）の出力を供給することで、映像音声再生装置に電源が供給される。右側面１Ｒには、操作スイッチ、端子等を設けてなく、かつ突起等をも構成していない。これら上面１Ｕ、側面１Ｌ、１Ｒを構成する筐体１ｋは、基本的には合成樹脂の成型によって作られている。背面１Ｂ、下面１Ｌは、上述した筐体１ｋに略直角に曲げられた板金がビス止めによって固定され、そのうち背面１Ｂには、ステレオアンプ（図示せず）、ＴＶモニター（同）に音声信号、映像信号を供給するための音声端子１ａ、１ｖがある。また、下面１Ｌの板金１ｍにはほぼ全面に合成樹脂シート１ｚ（図２に部分的に点線にて図示）が張られかつその四角近傍には合成樹脂シート１ｚの上から４つのゴム足１ｇ（図２に１つのみ図示）が接着により固定されている。

【００２３】２はモニター部で、装置本体１とはほぼ同じ幅の直方体形状で、装置本体１の上面１Ｕに覆いかぶって開閉するように、その上面１Ｕの背面１Ｂ近傍に設けられた回動支持部３によって回動自在に支持されている。２はモニター内面でその中央に液晶モニター画面（以下、ＬＣＤと略す）２ｍが構成され、ディスクの再生映像が映写される。２ｓはスピーカで、ＬＣＤ２ｍと回動支持部３との間の両サイドに設けられ、ディスクの再生音声がここからステレオで出力され、大勢の使用者でも全員で聴取できる。

【００２４】先に触れた選択Ｊスイッチ１ｊは、装置本体１の上面１Ｕの左側の前面近傍に設けられており、使用者がその釦を例えば人差し指で前後左右にひねることで、モニター部２のＬＣＤ２ｍ上に映写されるメニュー画面に従って操作項目等を選び、釦を押すことでその選択した操作項目が決定されるものであって、ディスクの映像音声再生中でも時々操作されるスイッチである。選択Ｊスイッチ１ｊはこのような前後左右方向及び押圧方向に対する切り替えスイッチ機構を有しているため、通常のプッシュスイッチ等と比べると背が高い。

【００２５】図５に装置本体の内部構成概略図を示す。図５において、４はメカニズムで、主にステンレス鋼、アルミニウム、真鍮等の金属部品で構成され、ディスク（図示せず）を載置して高速で回転させるスピンドル部

４ａと、回転中のディスクに光ビームを照射しディスクの情報を検出するピックアップ部４ｂと、ピックアップ部をディスクの径方向に移動させるトラバース部４ｃとから構成される。このように構成されたメカニズム４は、装置本体１の略中央から右側にダンパー４ｄを介して筐体１ｋに固定され、メカニズム４の発生振動が装置本体１に、あるいはその逆に映像音声再生装置に加わる外的振動（自動車車載時やポータブル機として手持ち時、ベルト等による、肩掛け時）がメカニズム４に、相互に影響を与えないようにダンパー４ｄがこれらの振動を吸収している。

【００２６】５は電気回路プリント基板（以下、Ｐ板と略す）で、メカニズム４を駆動制御する回路、検出したディスクの情報を映像、音声に復調する回路、使用者の操作に従ってそれらの回路を制御する回路、それらの回路に安定した電源を供給する回路等の電子回路（図示せず）が構成され、メカニズム４の下に装置本体１の内部全面にわたって構成されている。このように装置本体１は、本体の中央線（図示Ｃ線）に対し右側に偏って重いメカニズム４が構成されているので、全体の重心は装置の右側の方に偏っている。また、上述した選択Ｊスイッチ１ｊは装置本体右側に配置されたメカニズム４を避けて構成できるので、背の高い選択Ｊスイッチ１ｊによって装置本体が厚くなることもない。

【００２７】このように構成されている本実施の形態の映像音声再生装置の動作を説明する。従来の映像音声再生装置と同様に、図１に示すように、映像音声再生装置の下面１Ｓを書斎机、食卓あるいは乗用車のダッシュボード上（運転者からは見えないところ）等の平らなところ（以下、総称して机上と略す）に置き、上述した電源を左側面１Ｒの電源端子１ｐから供給し、操作スイッチ１ｃを操作することで、大勢の人でもディスクの再生映像、音声を視聴することができる。

【００２８】この場合、従来の映像音声再生装置と違って本実施の形態の映像音声再生装置では、スピーカ２ｓがＬＣＤ２ｍと同じ面であかつ下部に設けてあるので、視聴者がまっすぐＬＣＤ２ｍを見るように回動角度を調節すると、スピーカ２ｓも同じく視聴者の方に向くので音響特性を損なわない。また、一人でディスクの再生映像、音声を楽しみたいときには、ヘッドホンをヘッドホン端子１ｈに接続することで、スピーカ２ｓからの音声出力されないで、周囲に騒音を出さない。特に、周知のようにヘッドホンはその左側の耳部分から接続コードが出ていることが多く（あるいは、ヘッドホンの両耳から出ている）、ヘッドホン端子１ｈが左側面１Ｌにあることで、接続コードが左側だけできれいにまとめられ、視聴者と映像音声再生装置との間で接続コードがクロスさせる必然性がなくなる。

【００２９】また、振動体であるスピーカ２ｓを回動支持部３に近接させて設けているので、回動支持部３の

回動軸（図示せず）に対するスピーカー２sの振動モーメント力を小さくすることができ、回動支持部３に対する負担を小さくできる。加えて、装置本体内部のＰ板５上の電子回路、メカニズム４から発生する熱により、特に装置本体１の背面１Ｂから下面１Ｓに固定された板金１mが暖かくなるが、その上から合成樹脂シート１zが貼られているので、さわっても体感温度はさほど暖かく感じない。

【００３０】さらに、図６に示すように、モニター部２を開蓋したまま右側面１Ｒ、２Ｒを下になるように載置することで、横置きでも映像音声再生装置を載置することができる。この場合、装置本体１の右側面１Ｒには全く操作スイッチ、突起等がなく、かつ装置本体１とモニター部２とがその側面がほとんど同一平面で、回転支持部の回動中心Ｒに対し略垂直となっており、加えて、この状態においてはメカニズム４が下部にあるので、その重心は装置中心より下にあり、非常に安定な載置が可能となる。

【００３１】また、電源スイッチ１s、音声ボリューム１o、操作スイッチ群１c等がこの状態では上側、及び前側にあるので、使用者の操作に何ら支障が生じない。特に選択Ｊスイッチ１jも、この状態では前面上部に位置するので、装置本体１を親指、人差し指でつかむようにすれば親指で選択Ｊスイッチ１jをジョイスティック操作ができ、再生中でも操作できる。また、この横置きの場合においても、前の段落で詳述したように通常載置状態でのスピーカ、ヘッドホン端子の動作及び効果は変わらない。

【００３２】以上のように本実施の形態によれば、装置本体の右側面に操作スイッチ、接続端子を設けず、装置本体と装置本体に回動するモニター部との右側を略同一平面にすることで、装置の右側面を下になるように載置でき、加えて重いメカニズムを右側に偏らせて配置することで横置きにしても非常に安定に載置できるという効果を生じることができる。

【００３３】（実施の形態２）図７は本発明の実施の形態２を説明する図面で、図７（a）は部分構成斜視図、同（b）はバッテリー部とを装置本体とを係止固定する組立図である。図７において、１１は装置本体、１２はモニター部、１３は回動支持部で、これらは上述した実施の形態１で説明したものと同一なものである。１４はバッテリー部で、その筐体１４a内部に充電電池１４bが内包され、図７（b）に示すように筐体１４aの前面１４Ｆに設けたロックカギ部１４dで装置本体１１の背面１１Ｂに設けたカギ穴１１wとスライド係止され、装置本体１１とバッテリー部１４とが連結固定される。筐体１４aの右側面１４Ｒは、連結時に映像音声再生装置の右側面１１Ｒと略同平面あるいはやや奥まるように構成され、下面１４Ｓも装置本体下面１１Ｓと略同平面あるいはやや奥まるように構成されている。また筐体１４a

の左側面１４Ｌに構成した電源供給線１４cで、映像音声再生装置の電源端子１１pに電源を供給する。１４eは電源入力端子で、この端子を通じてＡＣアダプター

（図示せず）から充電電源の供給を受け充電電池１４bが充電される。図７（a）に示した部分断面のように筐体１４aの左側面１４Ｌには電源供給線１４c、電源入力端子１４eがあるので、充電電池１４bは筐体１４aの内部の右側に近接して内包されている。

【００３４】以上のように構成された映像音声再生装置について、以下その動作を説明する。バッテリー部１４から電源供給を受けた映像音声再生装置は、通常載置状態において実施の形態１と同様、ディスク（図示せず）の映像音声を観聴することができる。横置き状態の場合においても、全体の右側面１１Ｒ、１４Ｒを下方にして安定に載置できる。特に、装置本体１１aにおけるメカニズム（図示せず）の位置と同様に、バッテリー部１４においても筐体１４aの右側に近接させて重い充電電池１４bが構成されているので重心が右側にあり、横置き載置にしても安定度は増す。またバッテリー部１４は装置本体１１の背面１１Ｂに脱着されるので、横置き載置の場合、その重心同士を結ぶ線は装置本体１１とバッテリー部１４との右側面１１Ｌ、１４Ｌ内に垂下するので、装置本体１１とバッテリー部１４とが脱着いずれの場合でも、それらの合わせた重心位置は装置本体１１とバッテリー部１４との右側面内にあり、安定度も大きく変わらない。

【００３５】以上のように本実施の形態によれば、重心が右側に偏り、かつ右側面１４Ｒが脱着固定時に装置本体１１の右側面１１Ｒと略同一平面となるバッテリー部１４を装置本体１１の背面１１Ｂに脱着固定可能にすることで、充電電池１４bによる映像音声再生が可能になるとともに、通常載置、横置き載置どちらでも安定した載置が可能となる。

【００３６】なお、以上の説明では充電電池１４bを内包する構成にしたが、筐体１４aを開閉可能な構成にして交換可能な乾電池を同様に右側に近接させて配置させても同様の効果が得られる。さらに、上述した本実施の形態では、バッテリー部１４と装置本体１１との電源供給を両左側面にある電源供給線１４c、電源端子１１pを介して行われたが、必ずしもこれに限るものでなく、装置本体１１とバッテリー部１４とのスライド固定時に導通する電極を装置本体１１の背面１１Ｂとバッテリー部１４の前面１４Ｆとに設け、これらの電極を介して電源供給してもかまわない。この場合、充電電池の構成がしやすくなるので、電極は背面１１Ｂ、前面１４Ｆの左端部近傍に構成する方が望ましい。

【００３７】また、上述した本実施の形態では、副装置本体として、いわゆるバッテリーバックと称されるような、電池、充電電池を内包するバッテリー部として例示したが、必ずしもこれに限るものではなく、例えばコンピ

【0040】次に、左右音声信号L、Rは、音声切換スイッチ25を介して、スピーカ出力用の音声反転部28とヘッドホンアンプ26に出力先を切り替えられる。音声切換スイッチ25はヘッドホンプラグPがヘッドホン端子1hに接続されているか否かによって切換先が変わり、ヘッドホンプラグPがヘッドホン端子1hに接続されている場合左右音声信号L、Rはそのまま左右反転されないでヘッドホンアンプ26で増幅され、接続されたヘッドホン（図示せず）から左右そのままで出力され

【0045】横置き検知手段30aの第2の実施例は、重力センサを用いるものである。周知のように、重力センサは密閉された細管内を重力に従って微小金属球が転がることで、重力センサがどの方向に向いているかを検知するものである。図10に示すように、P板5（図5参照）にP板5と平行で回動支持部の回動軸と略同方向に固定された重力センサ31ⅰとP板5に垂直な方向に固定された重力センサ31ⅴとを設け、載置状態のP板

5の傾きすなわち装置本体の傾きを検知することで、装置本体の位置すなわち水平か垂直かを検知することができる。

【0046】横置き検知手段30aの第3の実施例は、メカニズム4の駆動電流によってメカニズムの位置を検出するものである。図5に示したように実施の形態1のメカニズム4は重心を右側面に近づけるようにするため、ピックアップ4bをディスク径方向に移動させるトラバース部4cは装置本体中央から右側方向に構成されており、そのためピックアップ4bも装置本体中央から右側方向に移動するように設計されている。そのため、ピックアップ4bを移動駆動するトラバース部4cの駆動モータの負荷電流は、装置本体が水平に載置されている場合、径外周方向に移動させる場合と径内周方向に移動させる場合とは大きく変わらない。しかし、横置き載置されて装置本体が垂直に載置された場合、重力に従って外周側にピックアップ4bを移動させる場合のトラバース部4cの駆動モータ負荷電流と、逆に重力に逆らって内周側にピックアップ4bを移動させる場合のトラバース部4cの駆動モータ負荷電流とは大きく異なる。この差を検出することで、映像音声再生装置の載置状況を知ることができ、自動的に横置き検出ができる。特に、DVDのような記録方式の場合、通常のオーディオCDに比べピックアップ4bを頻繁に径内外方向に微細移動させるので、再生中に横置きにしても検出することができる。また一般に、トラバース部4cの駆動モータ負荷電流、およびディスクを高速回転するスピンドル部4aのスピンドルモータ負荷電流はサーボ制御のためサーボ制御用マイクロコンピュータ（以下、サーボマイコンと略す）で常時検知しており、この実施例の方式の場合、サーボマイコンのプログラムを上述したように改めることで対応でき、非常に安価に実現できる。

【0047】さらに、高速回転しているスピンドルモータの負荷電流の低周波成分を検出し、それによって装置本体の外因による揺れ・振動を検知して、トラバース駆動電流の装置本体の外因による振動成分を補償することもできる。光ビームによる再生の場合、ディスクは非接触で回転しているので、スピンドルモータの負荷電流は特に低周波成分で安定している（たまた、面振れの大きいディスクの回転の場合、回転数の周波数以上でやや乱れることがあるが、低い低周波成分ではさほど乱れない）。このため低周波成分の乱れは外因による振動、すなわち映像音声再生装置の揺れ・振動が考えられ、これをトラバース駆動電流の装置本体の外因による振動成分に補償することで、より精度の高い検知が可能となる。

【0048】このように、横置き検出手段として第3の実施例であるメカニズムの駆動電流の変化を検出することで、非常に安価でかつ安定な自動検出も可能であり、これにより実施の形態3に示した映像音声の反転も可能となる。なお、本実施の形態の第3の実施例で、横置き

検知手段としてトラバース駆動電流の変化により装置本体の載置方向を検出する例を説明したが、例えばピックアップのフォーカスレンズ駆動の状態変化を検知することで装置本体の載置方向を検出することもできる。

【0049】また、本実施の形態では、スピーカー、ヘッドホン用に別々のアンプを構成し、それぞれの特性に合わせた音声増幅ができるようにし、DVDオーディオのような左右音声信号のみならず左右副音声や重低音音声信号を再生できるものにも対応できるものであるが、必ずしもこの構成に限るものでない。例えば、映像音声信号の音声出力をまずアンプで増幅し、その出力をヘッドホン端子（周知のような、ヘッドホンの接続により信号がヘッドホン向きかその他向きかに切り替わる音声切り換えスイッチの機能をも有するもの）を介して、上述したような音声反転部に入力しその出力をスピーカに供給すれば、ヘッドホンの接続により音声は左右が普通通りでしかもヘッドホンのみから聴取でき、ヘッドホン非接続時はスピーカにのみ音声信号が供給され、しかも音声反転部によってスピーカのみ左右反転されることができる。この場合、スピーカー、ヘッドホン用のアンプは共用できるので、安価に構成できるという利点がある。

【0050】なお、上述した実施の形態1～3の全てにおいて、記録再生媒体を光ディスクとした映像音声再生装置を例示したが、磁気テープを記録再生媒体としたものでも同じような構成によって同様の効果が得られる。この場合でも、実施の形態3の第3の実施例の横置き検知手段に相当するものは、例えば回転ヘッドドラム装置の駆動電流の姿勢差を用いればよい。

【0051】また、上述した実施の形態1、2において、操作スイッチやヘッドホンの出力端子等の入出力端子を装置本体の左側面に設け、右側面には何の入出力端子、操作スイッチを備えていないものを例示したが、その全く逆に操作スイッチやヘッドホンの出力端子等の入出力端子を装置本体の右側面に設け、左側面には何の入出力端子、操作スイッチを備えていないものであっても、重心を左側に偏らせることで、左頭部を下になるように横になる場合に対応させ、同様の効果が得られる。この場合、右腕、右手が上になり自由になるので、右利きの人には操作がしやすい好ましい形態になる。さらに、上述した実施の形態1、2において、モニター部の両側面とも装置本体の両側面と合わせたものを例示したが、操作スイッチやヘッドホンの出力端子等の入出力端子が構成されていない片側（実施の形態1、2では右側面）のみを少なくともモニター部と装置本体と合わせるのみでかまわない。また、例示したようなほぼ真つ平らな右側面にすることもなく、例えば細かいしぼ状の突起や、凹凸状の溝をモニター部と装置本体の右側面全面に設けても、またはそれぞれの右側面の前・後部近傍に複数の小突起を設けても、それらの最外部分で構成される面が実質的に平面で回転軸と略直角であれば、安定した

載置ができることはいうまでもない。

【0052】また、上述した実施の形態1～3の全てにおいて、記録再生媒体から再生のみを行う映像音声再生装置として説明したが、本発明は少なくとも再生ができるものであればよく、いわゆる記録再生装置のように記録も再生もできるものであってもよいことはいうまでもない。

【0053】

【発明の効果】以上のように本発明は、装置本体の第1の側面とモニター部装置の同じ側の側面とが、回動軸に略垂直な同じ面上にあり、かつ装置本体の重心が装置本体の第1の側面側に偏っているため、通常の装置本体下面を下側になるよう載置する場合（通常載置）と同じく、本体とモニター部を回動し第1の側面側を下側になるように載置する場合（横置き載置）でも非常に安定した載置が可能で、映出手段の画面を縦横どちらを下にしても見ることができるという優れた効果が得られる。

【0054】また、本発明は、装置本体とモニター部の両方の第1の側面には、再生に必要な電源端子、ヘッドホン端子等の端子手段、電源スイッチ、再生操作スイッチ等の操作手段がなく、かつ装置本体の重心が装置本体の第1の側面側に偏っているため、通常載置と同じく、横置き載置しても非常に安定した載置が可能でかつ映像音声再生装置の操作ができ、映出手段の画面を縦横どちらを下にしても操作することができるという優れた効果が得られる。

【0055】さらに、本発明は、充電電池や電池を内包するバッテリー部等の副装置本体の重心を、略平らな第2の側面側に偏らせ、装置本体の後部にこの副装置本体を固定させるようにすることで、横置き載置時、装置本体、副装置本体の重心が、それぞれ第1、第2の側面に近くかつ第1、第2の側面上に垂下するので、より安定に載置させることができるという優れた効果が得られ、また、主に金属でできて比重の高い、ディスク等を駆動するメカニズムを装置本体の第1の側面側に近接させて構成することで、装置本体の重心が第1の側面側に偏り、横置き載置が安定するという優れた効果が得られ、さらに、モニター部は装置本体の出力する音声信号を音響出力するスピーカを有し、スピーカは映出手段の映出画面と回動支持部との間に構成されたことを特徴とするもので、モニター画面と同一面下部にスピーカを構成したので、自然な視聴感が得られるのみならず、振動するスピーカの振動モーメントを小さくして回動支持部への負担を少なくするという優れた効果が得られる。

【0056】また、本発明は、横置き載置を自動的に検知し、使用者の操作により映像、音声を反転させるので、一側面を下部にする横置き載置の場合に、使用者がどのように横向きに寝ても、また音声をスピーカ、ヘッドホンのどちらで聴取しても、自然な視聴感が得られるという優れた効果が得られる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の形態1における構成斜視図（左前方斜視）

【図2】同、構成斜視図（右前方斜視）

【図3】同、構成斜視図（モニター部閉蓋時の左後方斜視）

【図4】同、構成斜視図（ディスク蓋開蓋時）

【図5】同、内部構成平面図

【図6】同、構成斜視図（横置き載置時）

10 【図7】本発明の実施の形態2における斜視構成図

【図8】本発明の実施の形態3におけるブロック構成図

【図9】本発明の実施の形態3における使用説明図

【図10】同、横置き検知手段の第2の実施例の斜視構成図

【図11】従来の映像音声再生装置の斜視構成図

【図12】同、使用状況図

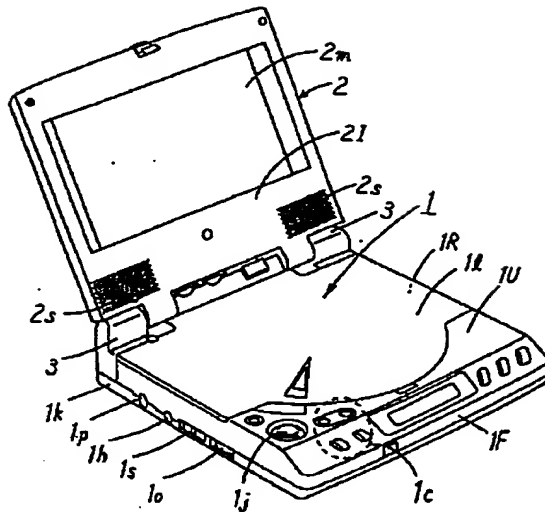
【符号の説明】

- 1、11 装置本体
- 1B、11B 背面
- 1F 前面
- 1L、11L 左側面
- 1R、11R 右側面
- 1S、11S 下面
- 1U 上面
- 1a 音声端子
- 1c 操作スイッチ群
- 1g、11g ゴム足
- 1h ヘッドホン端子
- 1j 選択Jスイッチ
- 1k 筐体
- 1l ディスク蓋
- 1m、11m 板金
- 1o 音声ボリューム
- 1p、11p 電源端子
- 1s 電源スイッチ
- 1v 映像端子
- 1z、11z 合成樹脂シート
- 2、12 モニター部
- 2I モニター内面
- 2m LCD
- 2s スピーカ
- 3、13 回動支持部
- 4 メカニズム
- 4a スピンドル部
- 4b ピックアップ部
- 4c トラバース部
- 4d ダンパー
- 5 P板
- 11w カギ穴
- 50 14 バッテリー部

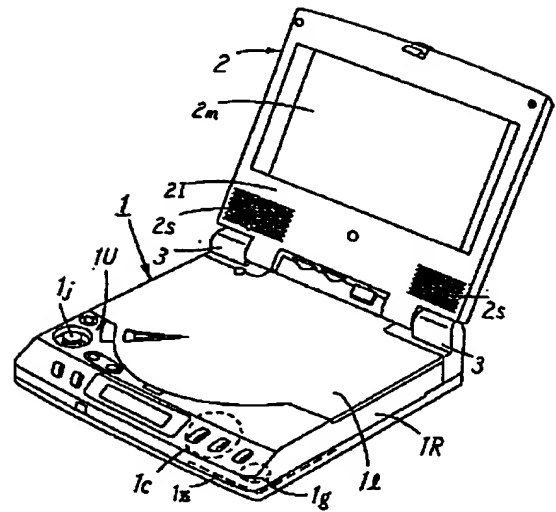
14F 前面
 14L 左側面
 14R 右側面
 14S 下面
 14a 筐体
 14b 充電池
 14c 電源供給線
 14d ロックカギ部
 14e 電源入力端子
 21 映像音声再生手段

22 外部出力手段
 23 映像反転手段
 24 LCD駆動部
 25 音声切換スイッチ
 26 ヘッドホンアンプ
 28 音声反転部
 29 スピーカアンプ
 30 反転信号出力手段
 30a 横置き検知手段
 10 30b 反転操作スイッチ

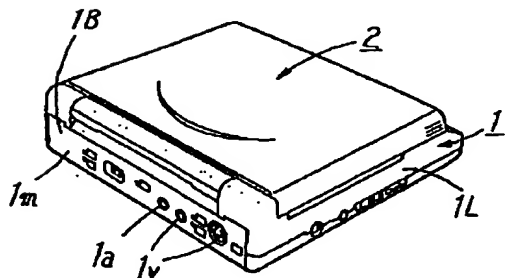
【図1】



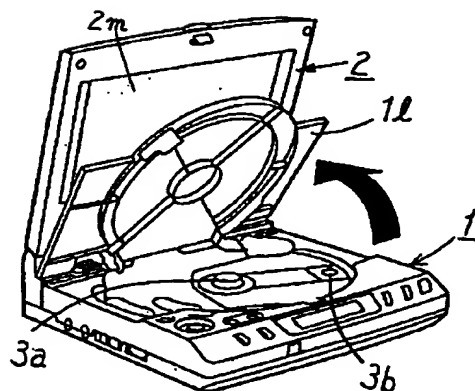
【図2】



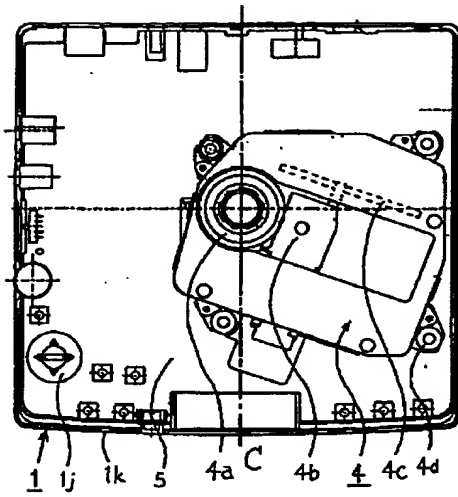
【図3】



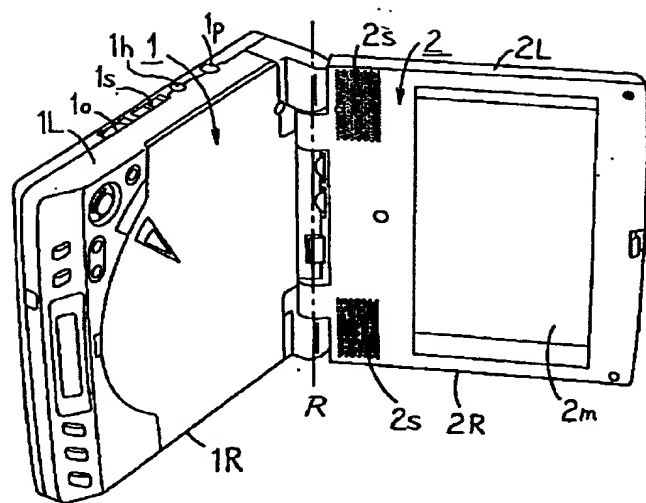
【図4】



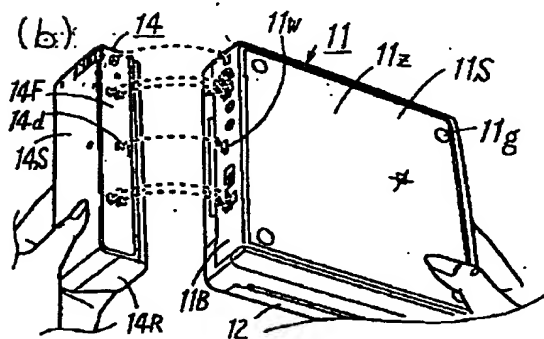
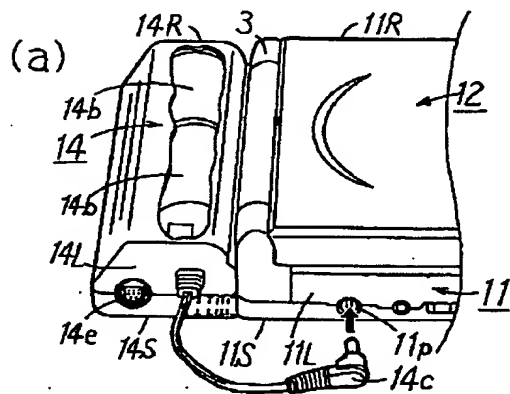
【図5】



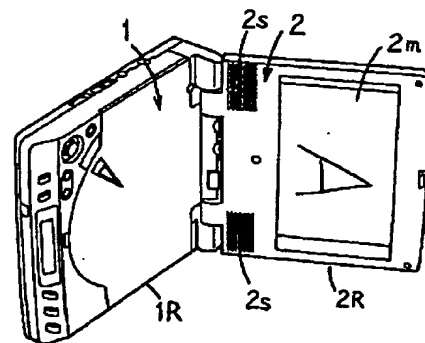
【図6】



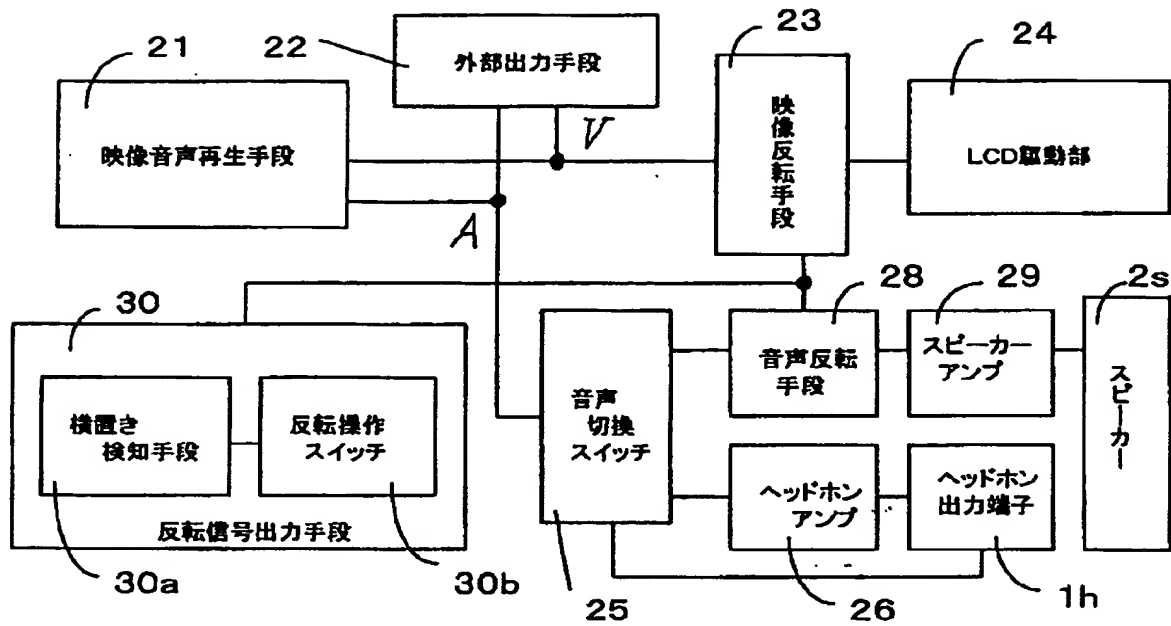
【図7】



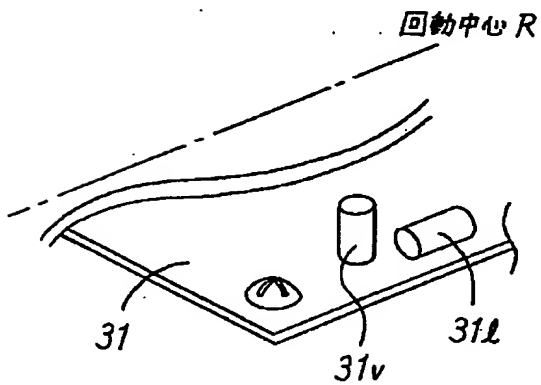
【図9】



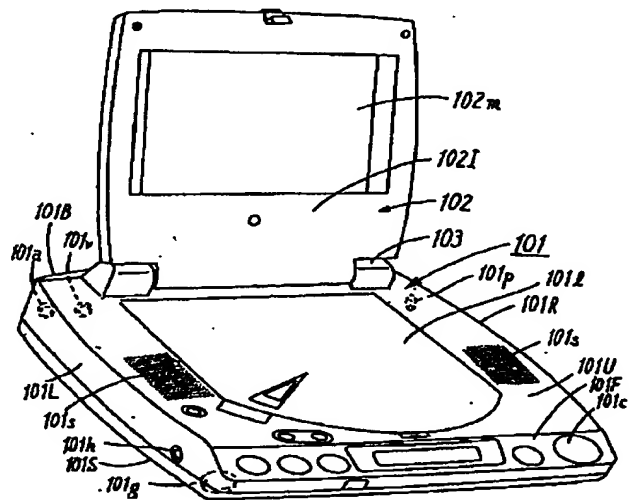
【図8】



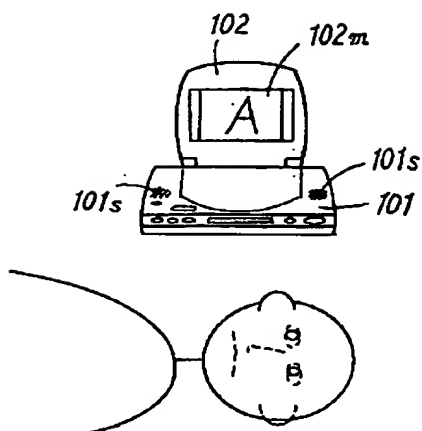
【図10】



【図11】



【図12】



フロントページの続き

(72)発明者 前岡 正
大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(72)発明者 藤本 良廣
大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(72)発明者 仲川 孝道
大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内